



今回は、SGH活動の成果を活用した進路開拓の報告です。

◇ 「SGH活動と進路開拓」 臼田真之君の合格体験記です！

今年の3月関高校を卒業する臼田真之です。先日、僕はセンター利用型推薦入試で一橋大学法学部に合格しました。今回は、関高校のSGH活動がどのように僕の進路決定に影響を与えたのかについて書きたいと思います。

まず僕の参加したSGH活動の取り組みですが、学校で行われる講演会・セミナーや研究発表に加えて、イギリス研修や東京で行われた日本考古学協会ポスターセッション、全国教育模擬国連大会に参加してきました。どの活動も刺激的なものでした。このほかに、米国留学(AFS)や英語検定資格(IELTS)取得等(注)、個人的にも様々なことに取り組みました。

SGH活動で身につく力は様々ですが、数多くある中で特に紹介したいのは、他者への伝達力とモチベーションの向上についてです。

<他者への伝達力>

まず、伝達力ですが、関高校のSGH活動では、全員参加の研究発表やポスターセッションなど、ほぼ全てにプレゼンテーションが組み込まれています。そのおかげで、自分の取り組んできたこと、主張したいことを、論理的に他者に説明する能力を養うことができたと思っています。どれだけ立派なことが頭の中にあってもそれを伝えることが出来なければ評価には繋がりません。

記述問題の回答を作成する時でもこの力は必須ですが、こと推薦入試に置いては合格を左右すると言っても過言ではありません。志望理由書、あるいは自己推薦書を書き上げる時にはどれだけ自分の能力をアピールできるかが鍵となります。また、推薦入試で主に課される面接や小論文でも、相手に自分の考えを理解してもらうことが求められます。

僕が推薦入試の小論文と面接対策に費やした時間は1週間に満たないほどでしたが、それでも合格を勝ち取れたのは、それまでSGH活動に取り組んできたおかげだと考えています。

<モチベーションの向上>

次にモチベーションの向上についてです。私見ですが、受験勉強に明確な目的を持って取り組んでいる高校生はあまり多くないのではないのでしょうか。きっとその理由には将来の目標や大学での学びに対する理解が欠けていることなどがあると思います。SGH活動を積極的に活用すれば、その部分を埋めることが可能です。

例えば僕は模擬国連大会への参加を通して、国際問題の知識を得て大学で学びたいと思えるテーマ、そして全国の高い意識をもつ同世代と出会うことができました。考古学・歴史学研究では、大学生が行うような研究と発表に携わって、大学での学びに対するイメージを持つことができました。これらがなければ僕は受験勉強に最後まで真摯に取り組むことができたかどうか、自信がありません。

これから関高校で学んでいく後輩達には、ぜひSGH活動に全力で取り組んで欲しいと思います。大学入試においてもそれ以降の人生においてもきっと有益なものをもたらしてくれる活動だからです。応援しています。

<一橋大学法学部の出願要件>

英検1級、TOEFL iBT 93点以上、TOEFL CBT 237点以上、TOEFL PBT 580点以上、またはIELTS(Academic Module) Overall Band Score 6.5以上 独検/仏検準1級以上またはヨーロッパ言語共通参照枠(GER/CECRL)が定めたB2以上のレベルの資格、中検準1級以上またはHSK6級200点以上、数学オリンピックで予選通過(Aランク取得)または、Bランク上位



模擬国連練習会 (名古屋高校)



全国教育模擬国連 2017



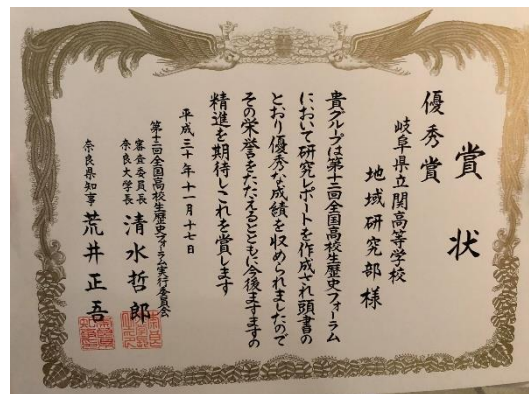
全国教育模擬国連 2018



日本考古学協会 2018



日本考古学協会 2018



全国高校生歴史フォーラム 2018



英国研修 ヘイドン校訪問



英国研修 大英博物館